

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

第4回北信越高校山スキー研修会 by 大西英樹先生

2月4・5日に、今年で4回目となる北信越高校山スキー研修会を行った。会の名前は仰々しいが私、大西（筆者注：大西英樹さんのことです、以下全て）と石川県の根石



さんが北信越高体連協議会の時に山スキーの話で盛り上がり、それでは一緒に行きますか、ということから始まったものである。今年度は石川の根石さんと北川さんが幹事を引き受けてくれ、岐阜県の平湯温泉をベースに2日間楽しく？登って滑ることができた。

4日の集合場所は平湯キャンプ場の駐車場で、ここから四ッ岳を目指す。今回の参加者は長野の大西、松田さん・石川の根石さん、北川さん、鴻埜さん・富山の八幡さん、そして遠く岡山から毎回参加の田中さんの7名である。挨拶もそこに準備を整え、小雪の舞う中、7:50に登り始める。幸いにも我々の進む方向に先行者のトレースがあったので遠慮なく利用させていたく。それぞれのメンバーとも1年ぶりの再会になるのだが、歩きながらすぐにスキーの道具や技術の話で盛り上がる。沢沿いの急斜面をつめ、尾根に上がった後に大滝川を渡って隣の尾根に取り付く。この日は天気予報では天気が良くなるということではあったが、いつまでたっても良くならず気温も低い。

長く休むと冷えるのでほとんど休むことなく進む。今回のルートは皆、初めてのルートである。立木が多く、所々に雪をかぶった岩があり、ここを滑ってくるのは大変だなあ、と話しながら登った。先行者は単独のようで、ラッセルを短縮するためかトレースはどんどん急になる。そのおかげで、今回一番細いスキーを履いている田中さんだけが、足を出してもズルズルと下へ滑るため遅れがちになる。一昔前の山スキーは、雪が落ち着いた春山で行うものであったので、スキーのセンターは70mmもあれば十分であった。だが、近年、我々もそうであるが、新雪の時期に滑るようになったため、どんどんと幅が太くなっている。太いスキー板は接雪面積が大きくなるので新雪にも滑り込まず、よくグリップしてくれるのでかなりの傾斜も登れる。「田中さん、道具変えた方がいいんじ

やないのー」という声もあり、田中さんは翌日の岡山までの帰路に松本に立ち寄り道具を新調したそうである。

標高2100mあたりまで登ったところでラッセルの主が滑り降りてきた。お礼をのべて状況を聞くと、森林限界を越えたあたりで風が強くなったので、四ッ岳まで登れずそこから滑ってきた、ということであった。12:40頃に2400mまで登り、小さな沢を越えると猛烈な風になった。時間も考え、これ以上進むこともなかろうとここから滑ることにする。登ってきたルートは滑るには適していないので、初めてのルートではあるが滑りやすそうな斜面を探しながら滑る。視界は200m程度、初見の場所なので現在位置と進行方向および前方の状況を確認しながら進むことになる。このときに頼りになるのがGPSである。今回、メンバーの多くがガーミン社のオレゴンやダコダというGPSレシーバーを持っている。これらの機種は国土地理院の2.5万図を表示させる事が出来るので、こんな時には大変心強い。GPSを見ながら進路を複数人数で相談し、確認しながら滑っていく。昨年一昨年この会の初日は天気が悪く、そんな中をGPSを見ながら滑走をしてきている経験者が多いので、ナビゲーションに関しての不安はなく、皆が交代しながらトップを滑っていく。

大滝川の渡渉点から少し登り返しがあり、ここでシールを貼る。八幡さんのCT40という新機能の接着面を持つシールが低温のためか？張り付かず、少し時間がかかった。

一滑りして16:30に平湯キャンプ場に到着する。極寒の中、長時間の行動だった。

宿はすぐ近くで、到着早々に冷えた体を温泉で温め、研修会夜の部を行う。プロジェクトを用意してきたので、この日撮影したスキーの動画や画像、また松田さんの遠征の様子を見ながら夜更けまで飲みつつ楽しんだ。

5日朝は日も差して良い天気である。朝食を済ませた後、輝（てらし）山へ行くために平湯峠へと向かう。入山口は平湯トンネルを抜けたところで、ここに車を停めて9:00より登り始める。輝山へは標高差700mあまりで、手軽に山スキーが楽しめる所だそう。冬季閉鎖の乗鞍スカイラインを歩きながら尾根の取り付きを探す。急な斜面を少し登ると広い台地に出る。そこから上は立木のほとんど無い広いオープンバーンで、下りは個々を滑り降りてくることになる。昨日とは全く違う良い天気で、景色を眺めながらゆっくり休憩する。山頂までは尾根通しのルートで11:30に、輝山山頂に到着する。ほとんど風もなく寒くない。ゆっくり行動食を食べた後に、見通しの良い尾根から大斜面へおもしろおもしろのシュプールを描きながら12:30、あっという間に到着した。

編集子のひとごと

北信越高校山岳部の顧問の自主的な技術研修会として定着した感のある山スキーの報告。小生は、この企画のあった週末、山岳センターで長山協50周年記念事業実行委員会の打ち上げ（土曜日）と長山協「山のセミナー」（日曜日）で参加できず留守本部。今回は大西英樹先生に報告していただいた。自主的な研修として今後も育てて行きたい。

本日（3月17日）は、乗鞍岳で行なわれた長山協自然保護委員会のライチョウ観察会に参加。一泊二日のところ故あって一日で帰らせてもらったが、位ヶ原で棲息する雄のライチョウを10羽ほど観察。冬場は雄と雌が別のところでそれぞれ群れをつくって住んでいるとのこと。過酷な自然の中で生きる氷河期の生き残りの生命力に感動。（大西浩記）